

# 全国患者図書サービス連絡会会報

Vol.25 No. 1  
 (通巻 No.83)  
 June 2019

## 目 次

### [投稿]

伊豆の国の病院の患者図書サービス  
 順天堂大学静岡病院 名取 厚子…………… 1

### [特別企画]

特別企画「患者図書サービスの振り返り」にあたって  
 山口 文子  
 磯野 威…………… 3

患者と情報  
 聖隷佐倉市民病院図書室 山口直比古…………… 4

8年ぶりの患者図書サービス再開 東京医科大学図書館 野坂美恵子…………… 8

静岡県立こども病院患者図書サービス「守」「破」「離」  
 静岡県立こども病院図書室 塚田 薫代……………11

こどものための医療健康情報サービスの取り組みについて  
 ～出版社の元営業マンとして、新米図書館員として～ 藤坂 康司……………14

患者図書サービス連絡会と私 奈良岡 功……………16

### [患者図書室訪問]

青梅市立総合病院訪問記 山口 文子……………20

[お知らせ] 2018年度決算報告・2019年度予算計画 ……………22

[投稿規定] ……………24

[編集後記] ……………24

<投稿>

## 伊豆の国の病院の患者図書サービス

順天堂大学静岡病院

名 取 厚 子

東京五輪まで500日を切り、自転車競技が開催される伊豆ベロドロームのある伊豆半島は活気に満ちている。東名高速道路と接続する伊豆縦貫自動車道も沼津市岡宮から長泉町・三島市・函南町・伊豆の国市を繋ぎ今年1月に伊豆市月ヶ瀬まで開通した。

この沿線にある当院で従事している患者図書サービスを報告する。

2008年7月にサービスを開始した。予め当院では患者図書室を1ヶ所に設けず各病棟のデイルームに少しずつ図書を配架するという方針が決まっていたので、担当者は5月から面会時間帯に病棟を訪ねてスペースを検討し、院内の50部署にサービスの案内を出して図書の寄贈を募った。その結果7月14日に5ヶ所の病棟のデイルームと手術患者家族控室にブックトラック（片面傾斜3段）を設置しサービスをスタートすることができた。

サービスの特徴として、貸出ノートは置いていないこと、寄贈された図書であること、順天堂にゆかりのある図書も配架されていることなどがあげられる。<sup>注</sup>図書管理委員会の委員長と図書の購入を検討したが、開始年の冬に近隣の図書館に協力を仰ぎ半年の間に蔵書を500冊以上に増やすことができたため購入はしていない。

担当者にとって図書室入職15年目にして初めて病棟に関わる機会となり、時間を決めてブックトラックの整理整頓を日課とした。次第に患者や患者家族からの寄贈も増加した。入院中の患者はブックトラックに直接寄贈され、一旦図書室で受入作業を行い病棟に戻した。患者に人気の図書は漫画や週刊誌の他に推理小説が多かった。退院後にダンボール箱一杯分の小説を寄贈されることもあった。病棟ごとの特徴も見られた。乳幼児を連れて見舞いに来る患者家族が多い産婦人科病棟はブックトラックの下段に絵本や漫画を置いた。絵本の寄贈は少なかったが歩行者天国のフリーマーケットで『フランダースの犬』や新美南吉氏の本を得ることができた。JAF会員向けの雑誌を製本して最上階の病棟に置いたところ入院中の男性がデイルームで読んでいるのを見かけることもあった。NHK大河ドラマで『篤姫』放映中に小児科の医師より山岡荘八氏の『徳川家康』の文庫本全26巻の寄贈を受け、江戸幕府ゆかりの医師が在籍したことのある病棟に宮尾登美子氏の『天璋院篤姫』とともに配架した。

病棟を中心とした患者図書サービスを外来へと展開し、待ち時間の問題を軽減するため外来窓口の隣に5種類程度のフリーペーパーを置いてみたところ、『広報いずのくに』や観光協会発行の季節の花の情報や富士山についてのパンフレットなどが読まれていた。患者図書サービス開始から10年が経過し、その間に伊豆縦貫自動車道沿線にテーマパークや道の駅が続々とでき設置するフリーペーパーの種類も豊富となった。

令和の幕開けとともに、当院は来院者用のWi-Fiの運用を開始し、院内で過ごすための環境整備を不断前進で行っている。また患者や患者家族から投書箱に患者図書サービスへの要望が寄せられ、その期待に応え患者図書の設置場所を増設している。これからも伊豆半島の資料や観光パンフレット、そしてビジネス書も配架するなどサービスを充実させたい。

注) 配架した学校法人順天堂ゆかりの資料

順天堂大学医学部編著、順天堂のやさしい医学シリーズ、東京:学生社、2004年—

吉村昭著、暁の旅人、東京:講談社、2005年4月298p

順天堂大学医学部附属病院看護部 順天堂医療看護学部編 看護のこころ順天堂のナースたち、東京:日本評論社、2006年6月221p

文藝春秋 表紙絵 (平松礼二画伯)、2010年8月号 佐藤泰然初代堂主、2010年9月

号松本良順先生、2010年12月号 佐藤尚中第二代堂主、

<特別企画>

「患者図書サービスの振り返り」にあたって

山口 文子  
磯野 威

「全国患者図書サービス連絡会」は今年、創立25周年を迎えました。一つの節目として、今後の活動の見通しを探るため、関連する諸団体と意見交換をしたいと考え、パネル講演会を企画しました。開催予定は今秋2019年10月です。現在、関連の皆様をお願いして計画を進めているところです。

私たちはこれまで、患者図書サービスに関する研修会、講演会、出版など、独自の活動を続けてきましたが、今秋のパネル講演会では、ご参加いただく諸団体から、それぞれの活動の経過、現状などをご紹介頂いた後、意見交換を行い、共通する課題、連携・協力の可能性などを明らかにすることができればと思っています。

本号では、秋の講演会に先立ち、現在、様々な図書館で患者図書サービスを実践されている方々に「患者図書サービスの振り返り」というテーマで執筆をお願いしました。この企画が、秋の講演会の活発な意見交換に繋がることを願っています。

## <患者図書サービスの振り返り>

# 患者と情報

聖隷佐倉市民病院図書室

山口 直比古

## 1 はじめに

人は病を得たときに患者となり、医師や看護師などの医療者と対面する。医療者は患者に対して、その病状や治療の方法などについて説明する。その時、多くの患者は医療者の説明を理解するのに苦労することになる。なぜなら、両者の間には大きな壁が存在するからだ。元より病気や診療についての知識の量や質が異なることから生じるコミュニケーションギャップがあり、それを解消することでしか両者の相互理解は生まれない。その相互理解のためのカギとなるのが「情報」である。患者がその「情報」を得るにはどうすればよいのであろうか。情報を得られる「場所」へ行き、情報を提供してくれる、あるいは情報入手を手伝ってくれる「人」と対話するのである。そこに「患者図書室」の存在意義がある。

## 2 背景－患者には何故情報が必要なのか

患者が医療における主体的な存在として認識されるようになったのは、比較的最近のことである。1960年代後半のアメリカでは、ヴェトナム戦争の反戦運動から公民権運動や人種差別撤廃運動など広がりを見せ、さらに消費者運動へと展開していった。そうした中、消費者健康情報サービスという考え方が登場した。これは医療・医学の専門家のためではなく、一般市民（消費者）に対して提供される健康・医療情報サービスのことをいう。消費者自らが健康・医療に関する情報や知識を得ることによって、医療の選択肢を増やし、健康を維持するために役立てることを目的とした。健康情報学とも呼ばれている。<sup>1)</sup> こうした流れの中で1973年に米国病院協会により「患者の権利章典」が発表された。この中の2番目の項目として「患者は、自分の診断・治療・予後について完全な新しい情報を、自分に十分理解できる言葉で伝えられる権利がある」と宣言している。<sup>2)</sup>

さらに、1980年代には患者の知る権利を保証するため、医療者から患者への説明が求められるようになっていく。患者は説明を理解して了解する (Informed Consent) ばかりではなく、治療の方法等については自分で決定する、という考え方が広まってきた。<sup>3)</sup> さらには現在では、医療者と患者が協働して治療方針を決める Shared Decision Making という考え方が広まってきている。<sup>4)</sup> それまでの、患者は医療者の言う通りにしていればよい、というような考え方 (父権主義: パターナリズム) から患者中心主義 (Patient Centered) へと変化してきているのである。米国病院協会の「患者の権利章典」も、2003年には「治療におけるパートナーシップ」へと変わった。<sup>5)</sup>

日本においても2006年の医療法改正により、その第1条4項の2で「医療の担い手は、

医療を提供するにあたり、適切な説明を行い、医療を受ける者の理解を得るよう務めなければならない」とし、さらに第6条第2項の2に「医療提供施設の開設者及び管理者は、医療を受ける者が保健医療サービスの選択を適切に行うことができるように、当該医療提供施設の提供する医療について、正確かつ適切な情報を提供するとともに、患者又はその家族からの相談に適切に応ずるよう努めなければならない。」と規定された。ここでは Informed Consent という言葉こそ使用されていないが、医療者から患者への説明が義務づけられたといってもいいだろう。しかしながら、これはあくまで医療者の立場からの説明義務であって、必ずしも患者の視点に立っての文言ではない。説明を受ける患者の抱える問題点については触れられていないのである。この点について谷口等は「患者側に制度設計の参画機会を提供する必要がある」と指摘している。<sup>6)</sup> 制度設計は経済的な側面を含む政策的な課題となる可能性があるが、シンプルに患者の視点に立ったわかりやすい説明ということであるならば、医療者の認識の範囲内ということになるかもしれない。しかし、そこには患者が存在していない。

そうした Informed Consent という考え方の問題点（医療者の側からの一方的な情報提供で、患者の理解までを想定しておらず、医療者の免責としてしか機能していないのかもしれない、という問題点）を克服する目的で Shared Decision Making という考え方が示されてきた。医療者は専門知識や経験を、患者は「自分なりの価値観」をベースにコミュニケーションを取りながら、一緒に治療の方法や退院後の生活などの目標を定めてゆく、というものである。健康は一方向の価値で決まるものではなくて、納得のいくゴールを目指す両者が、情報やプロセスを共有し合いながら、納得したゴールに向けて「価値を共有」し「対話」をしながら意思決定を行ってゆくというものである。そこでは患者の主体的な「価値観」が重視される。医療者が納得するのなら「治療しない」という選択肢すら含まれている。こうした患者の自己決定へ至る過程で、医療者の説明を理解し、示された選択肢の中から自らの価値観により選択する手助けとなるのが、様々な「情報」ということになる。「情報」という言葉には、本来「判断を手助けするもの」という意味あいがあるのである。

### 3 患者図書室の役割

患者は情報を求めている。<sup>7)</sup> 情報を求めて、公共図書館へ行く人も多いただろう。しかしながら、現在の公共図書館における医療・健康情報サービスの量や質は決して期待に応えてくれるものではないだろう。そこに病院にある患者図書室が果たすべき役割がある。

患者図書室の最も大きな役割は、体や病気、その治療法、予後（退院後の生活や長い人生を過ごす上での留意点）などの情報を提供することにより、患者の知る権利を保証し、情報の面から患者の自己決定を支援することである。その具体的な内容としては、医学書やパンフレットなどを提供することにより、医療者との情報のギャップを解消するための手助けをすることである。患者が医療者の説明を受けた後、その理解を補助したり、より深めるということである。多くの医療者は、病名を含めて医学専門用語を交えて患者に説

明するが、患者にとっては理解できないことも多い。特に病名を正確に記憶することは、医療者が想像する以上に難しい。ましてや横文字で表現される薬剤や治療の手技などにおいては、紙にでも書いて説明を受けなければ、言葉があやふやなままで受け答えをしてしまいがちになる。

患者は医療者にその理解できなかった部分を聞き返すことは大変に難しく、あいまいなままで診療を終えてしまいがちである。そうした場合、医学辞書や医学書を備えた図書室が存在すれば、自分で、あるいは図書室担当の司書の手助けを受けて、病名の確認やその内容、治療法や退院後の生活についての情報を得ることができるだろう。これが患者用図書室の最も大きな役割である。

#### 4 患者用図書室に必要なもの

患者用図書室に必要なものは、①病院内の患者のアクセスしやすい位置に適度のスペースの確保、②資料を選定したり、人的な支援サービスをする人材、③情報を提供するための資料、④資料を購入するための予算、などである。この他に、インターネットによる情報収集を助けるためのパソコンや、資料を持ち帰れるようにするための複写機なども用意できるとよいだろう。

2004年の調査では、当時日本でおおよそ100施設ほどの患者用図書室が開設されていたが、その実態は50㎡の独立した施設に300～400冊の医学専門書を所蔵し、医師を含む運営委員会の支援を受けて、図書館員とボランティアにより運営されていた。閲覧を中心としたサービスだが、インターネットを利用できる環境を提供しているところが多かった。予算は無いが、あってもごくわずかな金額であった。<sup>8)</sup>

医学にかかわる情報は、常に新しいものを提供したいので、資料を購入するための予算は確保したいところである。最近では、患者や一般市民向けにやさしく書かれた医学書が多数出版されている。年間で30～50万円程度は用意したい。お金のかからない寄贈本にたよるのは、情報が偏る可能性があるため、できるだけ避けるべきである。

病院内では、患者は緊張を強いられ、強いストレスを感じるものである。そのため、病院の雰囲気とは違う、ほっと一息つける場所が病院内にあるとよいかもしれない。患者図書室がその役割を果たすことができるよう設計することも可能である。肩の凝らない本や雑誌、BGMや給水機（薬が飲める）などもあってもよいだろう。

#### 4 さいごに

病院や図書館には様々な人々が集まるが、病院（病気）と図書館という二つのキーワードの交わるところに、患者図書室という仕事の新しい姿が見えてくる。そこでは情報の提供というサービスが行われるが、もちろん一つの図書館でできることは限られている。厚生労働省が進める地域包括ケアシステムでは、地域の中での住民の健康維持が重要なテーマである。その中で、地域にある大学図書館や公共図書館、さらには病院にある医療者向けの図書館などとの連携が重要となる。病院では用意できないような専門的な情報は大学

の医学部図書館や病院図書館から提供を受けるし、公共図書館からは団体貸出で一般書などを提供していただくことができる。実は患者図書室で最も多く利用され喜ばれているのは佐伯泰英の「居眠り磐根江戸双紙」という時代劇の文庫本のシリーズだったりもするのである。

患者の意向に関する社会的環境は、日々変化しつつある。従って Shared Decision Making のような新しい言葉や概念が次々と登場している。それは医療における患者の立場が、医療を受けるという受動的な立場から、自分の受ける診療については医療者の説明を受け、治療などの選択肢を提示されたうえで、自分で知識を得、自分で判断し、自分で決める、という方向に大きく動いていることと関わっている。そうした変化する環境の中で、患者図書室を本拠地として図書館員にできることは何か、ということをおいておく必要があるだろう。

## 引用文献

- 1) 中山健夫 健康情報学への招待 呼吸と循環 2015, 63 (12):1183-1189
- 2) WEB 患者の権利章典 URL <http://www.arsvi.com/1900/73.htm>  
(Accessed 2019/05/08)
- 3) 峯田周幸 インフォームド・コンセントの基本的な考え方と実践 ENTONI 2014、  
163:1-6
- 4) 中山健夫著 これから始める！シェアード・ディシジョンメイキング;新しい医療のコミュニケーション 日本医事新報社 2017
- 5) 大野博 アメリカ病院協会の「患者の権利章典」の変化とその特徴;権利の宣言からパートナーシップへ 医療と社会 2011, 21 (3):309-323
- 6) (1):151-158
- 7) 山口育子 患者の求める情報をどう体系化するか 病院, 2012, 71 (4):277-280
- 8) 山口直比古 他 患者図書室実態調査報告 2005 厚生労働省科学研究費補助金(医療技術総合研究事業) 患者・家族のための良質な保険医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究(主任研究者:緒方裕光) 17-31



<患者図書サービスの振り返り>

## 8年ぶりの患者図書サービス再開

東京医科大学図書館

野坂 美恵子

1997年から各病院で患者図書サービスというキーワードが登場しはじめ、当時3病院が先進的なサービスを始めた。すでに20年以上経過し、患者対象のサービスを提供している機関は各種調査によるとその数は飛躍的に増加していることがうかがえる。

そんな中、東京医科大学病院の患者図書サービスは2006年6月に「患者さま図書室」として開室したのが始まりである。その経緯についてはすでに『医学図書館』<sup>1), 2)</sup> 『全国患者図書サービス連絡会会報』<sup>3)</sup> に報告している。

開室当時の「患者さま図書室」は病院外来棟からのアクセスが良い医局棟の3階にあるものの、面積15㎡という狭いスペースであった。スタッフは病院所属で司書資格を保持している臨時職員を採用し、東京医科大学図書館（以下、当館）の職員が選書、装備等を行っていた。「患者さま図書室」のスタッフが急に休暇となったときなどは、当館職員が交代でカウンター当番となり、そのほか参考業務や文献検索のフォローもしていた。面積は狭くても良質な医療情報を提供しようということをモットーとした。病院長直属の組織という位置づけの病院施設であったが、病院の敷地内には大学施設としての当館があり、患者図書サービスに協力できるメリットがあった。

「患者さま図書室」は患者さんをはじめ院内の他部署からも認知され利用者が安定していたが、2011年3月の東日本大震災の影響で突然サービスの中断を余儀なくされた。というのも、「患者さま図書室」が設置されていた医局棟は老朽化が進み、震災時に上層階の各教授室で被害が大きかった。この被害状況により、医局棟に患者さんをはじめとする市民の利用者が来室する「患者さま図書室」を存続させるのは危険と判断され、2011年3月から一時閉室するという決定がなされた。代替のスペースを探してほしいことを当館も希望をしていたが、なかなか条件に合うスペースが見つからないということで時間だけが過ぎていった。

その後、本学では病院敷地内の西新宿キャンパス整備計画が持ち上がった。整備計画によると2013年に教育研究棟、2016年に新病院棟という2つの建物が建築予定となっていた。現病院では新しく建築される教育研究棟への移転の準備のために患者図書室のスペースを確保する余裕がないため、2016年の新病院建築まで待つようにということになった。

この間、患者さんや学外の施設あるいは病院総合受付等から「患者さま図書室」の再開予定の問い合わせも時々あり、そのたびに病院の関係部署へはなるべく早く再開してほしいと依頼していた。問い合わせがあると、患者さんへの情報提供の必要性和それに応えられないジレンマなど、複雑な心境であった。患者図書サービスを再開できる日を指折り数

える毎日であり、2016年に新病院が完成予定であったが、計画の変更により実際には2019年7月開院となり、結局8年もの空白期間となってしまった。

いよいよ新病院の設計計画が具体的になってきた頃に、新病院開院準備室から「患者情報コーナー（仮称）ワーキンググループ」の会義に出席するようという要請があった。新病院が完成したら「患者図書室」を再開すると仮の約束はしてはいたものの、実際に新病院全体の平面図の中にその存在を確認し、「患者情報コーナーワーキンググループ」が発足するまではいつまでも半信半疑であった。

そうしてようやく2017年から開院準備室が主導し、患者情報コーナーワーキンググループが始動した。ワーキンググループのメンバーは大学病院内の看護部、総務課、広報室、資材課、医療連携室、大学図書館であった。数回の会議を経て、まず名称や情報提供のコンセプト、開室時間などが決まり準備は着々と進んだ。正式名称は「医療情報サロン」と決定した。また今後の運営に関しては「医療情報サロン運営会議」で決定することとし、責任者には病院長指名で内科系の主任教授が就任した。この頃から患者図書室をきちんと運営し続けて来られた先行図書室への見学もさせていただき、改めて患者図書室再開の心準備ができた。

念願だった新病院オープンを間近に控え、「医療情報サロン」の形ができあがってきた。新病院9階、屋上庭園が眼前に広がり、コンビニ、イートインスペース、患者レストランに囲まれた一角に「医療情報サロン」のスペースが確定した。

主管部署は8年前の「患者さま図書室」と同様に大学病院総務課となり、当館も選書、運営等に協力するという体制となった。ボランティアによる運営ではなく常駐スタッフの配属も決まっているが、司書資格保持者ではなく、病院雇用の委託業者スタッフとしての採用となる。そのためオープン前に当館での研修も計画している。マニュアル作成や患者さんへの情報提供の基本について研修の予定である。

図書購入費の予算額も当初の要求額の70%となってしまったが、約300冊を購入・登録し、寄贈図書やパンフレット類の収集について院内各部署へ協力をお願いしている。また、蔵書は「患者さま図書室」と同様に当館の分室としての位置づけで図書館システムに登録した。

患者図書サービスを取り巻く状況も8年前とはずいぶん変わってきていると思われる。現場から遠ざかってしまい、まるで浦島太郎の心境である。8年間の空白をどれだけ埋めることができるのか、不安のなか大きな一歩を踏み出すことになる。そして改めて勉強させていただく良い機会に恵まれたことに感謝したい。

新病院の「医療情報サロン」では旧病院「患者さま図書室」よりスペースに余裕ができた。3年前の2016年に本学は創立100周年を迎えた。2006年の「患者さま図書室」創設当時はスペースの関係で本学の歴史を紹介するコーナーを作れなかったが、これからは100年の歴史の重みも利用者にPRしたいと考えている。

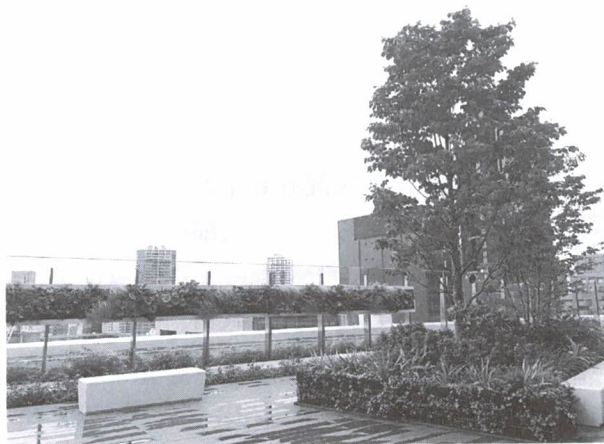
市民への医療情報提供は公共図書館でも活発になっている。当館のスタッフも日本医学図書館協会の医療・健康情報委員会のメンバーとして活動し、公共図書館員の声を直接聴いている。当院の患者をはじめ、近隣住民や医療連携医等にも医療情報サービスを提供し、社会貢献の一端を担えればと考えている。正式オープンを前にあれこれと思う今日この頃である。

## 参考文献

- 1) 遠藤典子, 東京医科大学病院「患者さま図書室」を開設して, 医学図書館, 2007;54 (2):172-175.
- 2) 江上裕菜, 良質な医療情報提供にむけて:東京医科大学病院「患者さま図書室」の分析, 医学図書館, 2009;56 (2):131-135.
- 3) 野坂美恵子, 小さな一歩から:「東京医科大学病院患者さま図書室」のあゆみ, 全国患者図書サービス連絡会会報, 2011;18 (1):15-18



「医療情報サロン」の様子



「医療情報サロン」の出入り口付近から見える屋上庭園の風景です

<患者図書サービスの振り返り>

## 静岡県立こども病院患者図書サービス「守」「破」「離」

静岡県立こども病院図書室

塚田 薫 代

### 1 はじめに

令和がスタートした今年「患者図書サービスを振りかえって投稿を」とご依頼をいただき、僭越ながら27年の歩みを報告致します。末尾に時系列年表を添付したのでご参照下さい。

### 2 「守」

入院中の子どものためにわくわくぶんこを立ち上げたのは1995年、入職から3年目の事でした。当初、医療スタッフのための医学図書室はあっても、子どものためのそれはなかったのです。公共図書館出身で子育て中だった私にとって、それはとても不自然なものでした。医学司書業務に慣れた3年目、医局に相談して30万円の寄付をもらい（さすが小児科医！）ブックトラック2台とわずかな絵本でサービスをスタートしました。病棟に新しい絵本を運んだ時、子どもたちがとても嬉しそうだったのを覚えています。

翌1996年には、神奈川こども医療センターの山口文子氏（当時）に誘っていただき、全国患者図書サービス連絡会に入会しました。同志が全国に居ると知り心強く思ったものです。

1997年、伊藤忠財団こども文庫助成制度に応募し100万円の助成金を受領しました。図書室内に専用棚を取りつけ、ブックトラックと本を増やし、わくわくぶんこは拡充しました。図書ボランティアさんも増え、ようやく各病棟へ本を巡回できるようになりました。

### 3 「破」

実はかねてから私は患者（ご家族）への医学情報提供の必要性を感じていました。わくわくぶんこへ絵本を借りに来る親御さんから要望が強かったのです。しかし当初はパターンリズムの時代、なかなか病院側の理解を得られませんでした。そこで応援してくれる医師の後押しを受け、2002年秋、有名な京都南病院の山室眞知子氏（当時）を訪ね、先駆的サービスを見学させてもらいました。山室さんに温かく迎えてもらい、激励を受け、ますます意を強くしたのを覚えています。

2003年ついに風向きが変わります。院長・事務長から「患者さん・ご家族むけの医学情報コーナー設立を」との打診がありました。時代背景に、患者へのカルテ開示や病院機能評価の影響があった事も追い風でした。協議を重ねた結果、図書室を患者ご家族に開放し専門的な医学情報の提供に漕ぎつけたのは2004年でした。フタを開けてみると、先天性心疾患や小児がんなど小児特有の疾患について、いかに親御さんのニーズが強かったかひしひしと感じました。

患者への医学情報提供を続けていくと、必然的に退院後の情報支援にも目を向けるようになってゆきます。しかし外来受診での提供だけではとても足りません。AfterHospitalを支えるために、考えたのが公共図書館との連携です。2008年、静岡県図書館協議会に加盟し、県内公共図書館の司書と顔馴染みになり、医学情報サービスを啓発し選書リストを提供しました。がん対策基本法（2007年）なども後押しとなり、公共図書館での医学情報サービスはデフォルトになりつつありました。2010年満を持して第1回医学情報キホン勉強会を当院にて開催し、以降毎年回を重ね、今年で9回目となります。スピーカーには毎年、当院内の医師・看護師・コメディカルに登壇してもらい、現場の話をしてもらいます。私たち医療者には当然の事でも、公共図書館司書には新鮮のようで、メッセージカードには医療者への熱い応援メッセージが寄せられ、医療支援としても好評です。この会から新たな連携も生まれ、入院中のAYA世代への学習支援ボランティアが静岡大学の学生により組織され、石川慶和准教授（特別支援教育専攻）の元、現在も続いています。

#### 4 「離」

わくわくぶんこや医学情報提供のサービスが軌道にのる中、手つかずの分野が重症心身障がい児と集中治療室でした。正直に言えば私はその必要性がわかっていなかったのです。そんな中で出会ったKちゃんには、障がいはあっても豊かな感情の世界が広がっていることを教えられました。絵本による親子の交流が、発達に欠かせないのはどんな子育ても同じです。何とかエビデンスを形にしたいと着手したのが研究【重症心身障がい児への絵本セラピー】でした。唾液アミラーゼをチェックすることにより、彼らが絵本を理解し楽しんでいることを明らかにすることが出来ました。

しかし未踏の集中治療室とりわけ心臓手術後のCCUは、最もコアな治療とケアが行われる特殊な場所ゆえ、絵本を持って入るのを躊躇していたのです。やがて親御さんへの情報提供をするうち、ベッドサイドでの発達支援の必要性を強く感じ、絵本をもって入ったのは2015年という最近の事でした。他県から入院している親子や、CCUに長期入院している親子にとって、絵本はとても必要なものでした。2018年研究【CCUにおける絵本朗読による子ども・家族支援とその影響】に着手します。絵本から最も遠い存在とされていた彼らこそ、実は最も必要としていたのです。

#### 5 これから

トピックだけを書きだしてみると順風満帆の印象ですが、現実には甘くありません。図書予算、司書の待遇、患者図書サービスに対する風当たりなど問題山積です。そんな中2018年3月3日開催された特別講演「今、学校で始まる「がん教育」」は、大きな示唆を与えてくれました。林和彦先生のように、司書も外へ出る時代が来ているのかもしれない。

今般、貴重な機会をいただき、全国患者図書サービス連絡会に御礼申し上げます。

参考文献

- 1) みんな言葉を持っていた 障害の重い人たちの心の世界 . 東京. オクムラ出版, 2012
- 2) 宅香菜子監訳, 心的外傷後成長ハンドブック 耐え難い体験が人の心にもたらすもの, 東京, 医学書院, 2014
- 3) 林和彦, 「がん」になるってどんなこと? — 子どもと一緒に知る, 東京, セブン&アイ出版, 2017
- 4) 近藤克則, 健康格差社会への処方箋, 東京, 医学書院, 2017
- 5) 塚田薫代, 重症心身障がい児への絵本朗読によるストレス変化および保護者の感情変化の評価, 静岡県立こども病院看護部看護研究集録, 2018;XVI:234-238

年表あの頃は・・・2019

©静岡県立こども病院図書室 塚田薫代

年	年齢	医学図書室の出来事	患者図書サービスの出来事	巷の主な出来事	ヒット曲	ベストセラー
H5.(1993)	26	こども病院図書室に塚田入職 医学雑誌はすべて紙の時代、Cumulated Index Medicus		皇太子・雅子様ご成婚 サッカーJリーグ開幕	負けないで 愛のままにわがままに	マディソン郡の橋
H7.(1995)	24	医中誌、Medline(PubMedの前身)はCD-ROMにて購入	わくわくぶんこスタート(ブックラック2台)	阪神大震災 地下鉄サリン事件	ロビンソン ずるい女	ソフィーの世界 フォレストガンブ
H8.(1996)	23		全国患者図書サービス連絡会加盟 図書ボランティアスタート	アトランタ五輪、YahooJapanサービス開始 名探偵コナン連載開始	名もなき詩、チェリー、LALALA LOVE SONG	脳内革命
H9.(1997)	22	インターネット登場	伊藤忠財団こども文庫助成金100万円受領、わくわくぶんこ拡大	消費税率5% 臓器移植法施行 東京湾アクアライン ONEPIECE連載開始	CAN YOU CELEBRATE? 硝子の少年 WHITE LOVE	失楽園 少年H 鉄道員(ぼっぼや)
H11.(1999)	20	PubMed登場 洋雑誌30%値上がり		茨城県東海村臨界事故 西暦2000年問題	だんご3兄弟 LOVEマシーン	五体不満足
H.16(2004)	15	MDConsult EJ時代始まる 東海地区医学図書館協議会目録会員となる	図書室を患者家族に開放、情報提供開始	アテネ五輪 新潟県中越地震	マツケンサンバ 瞳をとじて	ハリーポッターと不死鳥の騎士団 バカの壁
H20.(2008)	11	EJ契約増加、メディカルオンライン	静岡県図書館協議会に加盟、公共図書館との連携始まる	2007年がん対策基本法 リーマンショック オバマ大統領当選	truth, 崖の上のポニョ、キセキ、そばにいるね	ハリーポッターと死の秘宝 夢をかえろゾウ
H22.(2010)	9	Springer	伊藤忠財団こども文庫助成金30万円受領 第1回医学情報キホン勉強会(以降毎年開催)	バンクーバー冬季五輪 はやぶさ地球帰還	Beginer, Troublemaker	もしドラ 体脂肪計タニタの社員食堂
H.25(2013)	6	ClinicalKey、洋雑誌完全オンライン化 EBOOK契約すすむ	2012年第1回虹の会(遺族会)参加(以降毎年)	2011年東日本大震災 富士山世界遺産	恋するフォーチュンクッキー	聞く力 スタンフォードの自分を变える教室
H.27(2015)	4	NACISIS-CAT/ILLIに加盟 情報館OPAC作成 OVIDMD	こどもの療養支援プロジェクト助成(2014)環境整備	障害者総合支援法 北陸新幹線	Dragon Night トリゼツ	火花
H.28(2016)	3	メディカルオンラインEBOOK MedicalFinder	外来図書コーナーオープン 研究【重症心身障がい児への絵本セラピー】(倫理委員会審査)	がん対策基本法改正法 マイナンバー制度 熊本地震	翼はいらない、ハイテンション	おやすみロジャー 君の隣をたべたい
H.30(2018)	1	NVivo(質的研究支援ソフト) ILL黒字となる KITOcat終了、TOMcat-EJスタート	わくわくぶんこブックラック22台 第8回医学情報キホン勉強会 研究【循環器集中治療室(CCU)における絵本朗読による患児・家族への支援とその影響】	築地市場移転 日産ゴーン会長逮捕	Lemon USA	君たちはどう生きるか ざんねんな生き物事典
H.31 R.1(2019)	0	Qinsight (AI) EBSCO MedlineComplete, 医書jpオールアクセス	第55回日本小児循環器学会 多職種部門口頭発表【CCU絵本研究】6月29日	新天皇即位 元号令和 消費税10%	ハルノヒ	そして、バトンは渡された
R.2(2020)				東京オリンピック 小学校がん教育スタート		

<患者図書サービスの振り返り>

## こどものための医療健康情報サービスの取り組みについて ～出版社の元営業マンとして、新米図書館員として～

藤 坂 康 司

私は、2019年3月まで、こどもの本の出版社で16年間営業職として働いてきました。4月からは図書館関連の会社に転職し、図書館の現場で働いております。出版社に勤務する以前は22年ほど書店につとめておりましたので、これまで書店、出版社、そしてこれから図書館と、社会人になってからずっと本に関わる仕事をしております。

今回はこどもの本の出版社の現場で感じた、こどもたちへの医療健康情報サービスのことと、これから図書館の現場で取り組んでいきたいことを書かせてもらいます。

私のいました出版社の営業職は何をするかといいますと、①全国の書店への売り込み ②取次といわれる本の間屋への売り込み ③全国の学校・公共図書館への売り込み この三つが主な仕事です。私が図書館と関わるようになったのは、出版社の仕事で学校図書館を訪問したことがきっかけでした。当時全国の学校図書館にはまだまだ司書が配置されていない学校が多く、図書館としてとてもレベルが高いとは言えない現場が沢山ありました。そういう状況でしたので、いったい図書館の世界はどうなっているのだろうか、それから全国の図書館員さんとの人脈を作り、広げていきました。その過程で図書館での医療健康情報サービスを知ることになりました。2013年6月にNPO法人キャンサーリボンズと図書館海援隊リボン部の主催で開催されたワークショップ「全力討論！ がん患者さんと家族を支えるために図書館と病院・医療従事者の連携が始まる」<sup>注1)</sup>で登壇された静岡県立こども病院図書室の司書塚田薫代さんの講演で、こどもの本の出版社も図書館の医療健康情報サービスに役に立てることは沢山あるということを教えてもらいました。

塚田さんの講演をきっかけにして、自社で出版している絵本や読み物のなかで、こどもの病気、障害などに関するものを集めたブックリストを、編集者とプロモーション担当者につくってもらいました。それが『こどもの「こころ」と「からだ」、「さまざまな障害」について理解を深める本のリスト』です。<sup>注2)</sup>

このリストは学校・公共はじめ図書館のみなさんにとっても好評をいただいて、毎年のように版を重ねておりました。

リストをつくって分かったことは、①他のベストセラーやロングセラーに囲まれて、埋もれてしまっている本がたくさんあるということと、②自社の本だけでは取り上げられない病気や障害も多く物足りないことでした。

病気や障害に関する絵本は、その本を潜在的に必要としている人にどうやって存在をしってもらえるのかがとても重要なのですが、書名やサブタイトルに病名を入れることは直接的すぎて、逆に多くの人に手に取ってもらえなくなってしまう。多くの人に手にとってもらいながら、本当に必要な人にしっかりと届くようにするためにはどうすればいいか。最近

の書店の児童書売り場は新刊やベストセラーが中心で、ロングセラーの絵本も売れ行き上位の本しか棚にない状況ですので、書店はあまり頼りになりません。最近はネット書店で購入される方も多いので、検索キーワードに病名やそれに付随する言葉を登録して、病名を入力して検索すると関連する絵本が表示されるようにしました。<sup>注3)</sup> これはなかなか効果があると思うのですが、実際に手に取って見てもらうことができないのが欠点です。

本を多くの人に手に取ってもらえる場所といえば図書館です。日本の公共図書館の児童サービスはとても充実していて、司書のみなさんの子どもに本をとどける努力には頭がさがる思いです。学校図書館への司書配置も少しずつですが進んできていますので、ブックリストは改訂するたびに全国の公共図書館、学校図書館に届けていました。まずは本を子どもたちにとどけてくれる司書のみなさんに本の存在を知ってもらうためです。ブックリストに興味を持っていただけて、ご自身の勤める図書館に蔵書されているかだけでもチェックしてもらえるといいなと思っております。このブックリストをもとにした展示コーナーをつくってもらえるともっと嬉しいですし、さらにいえば常設にしてくださる図書館が一館でもふえればと思っております。

と考えていたのですが、3月で退職しましたので、出版社の営業としての販売促進はできなくなってしまいました。4月から公共図書館員になるべく勉強をはじめましたので、今後は公共図書館の中に入って、こどものための医療健康情報サービスに取り組むこととなります。

最後に私が公共図書館でどういう取り組みをしてみたいかを考えてみたいと思います。まだ赴任する館も決まっていない状況なので、どういうことが実際にできるかわかりませんが、地域の課題解決に結びつく取り組みをしていきたいと思います。

- ① こどものための医療健康情報の棚を作り、病気や障害ごとに分類し排架する  
読み聞かせやブックトーク、ブックリストだけでなく、実際に棚をブラウジングして本を手にとる環境をつくりたい。
- ② 当事者である子どもや家族の支えになる本もまとめてコーナー化する  
病気と闘っている子どもや家族が自己肯定感をもてたり、元気をもらえる本もそろえたい。
- ③ 患者図書室・病院図書館との連携  
地域にどういうニーズがあるのか、役にたてることはどういう点なのかを探して取り組みたい
- ④ 特別支援学校・学級の図書館との連携
- ⑤ 親子で参加できるがん教育ワークショップ

などなど、まだ絵に描いた餅ですが、将来図書館の現場でこどものための医療健康情報サービスに取り組んでいきたいと思っております。

注1 [http://www.ribbonz.jp/dl/media/201308\\_znrktrn.pdf](http://www.ribbonz.jp/dl/media/201308_znrktrn.pdf)

注2 [https://www.kaiseisha.co.jp/wp-content/uploads/2017/06/doc\\_barrierfree.pdf](https://www.kaiseisha.co.jp/wp-content/uploads/2017/06/doc_barrierfree.pdf)

注3 [https://www.amazon.co.jp/s?k=斜視&\\_\\_mk\\_\\_ja\\_\\_JP=カタカナ&ref=nb\\_sb\\_noss](https://www.amazon.co.jp/s?k=斜視&__mk__ja__JP=カタカナ&ref=nb_sb_noss)  
アマゾンで「斜視」で検索してみてください。



<患者図書サービスの振り返り>

## 全国患者図書サービス連絡会と私

奈良岡 功

### 1. 初めに

本稿は、全国患者図書サービス連絡会の代表という立場を離れて、当連絡会の設立メンバーとして25年間携わってきた私が、当連絡会の歩みとその関わりと共に振り返る“自分史”といえるものである。現在の読者諸兄には当時の状況を知る“よすが”になれば幸甚である。

私が患者図書サービスを知ったのは、自治医科大学附属病院に職を得た1976年（昭和51年）当時の世相に由来している。公共図書館を希望していたが、当時は、オイルショックの時期と重なり、大卒者は職を得ることは困難であった。更に高校から始めた演劇（新劇）活動は危険思想者と思われ、一層就職を困難にしていた。

### 2. 患者図書サービスとの出会い

このような時期に、自治医科大学に運よく就職できた。4年目にサービス（レファレンス）部門担当になって、時々患者さんから図書館を利用したいという希望が寄せられていることを知った。私は公共図書館を希望していたこともあり、当時の医学図書館の一般への開放をしないという「閉鎖性」に違和感を持っていた。しかし、図書館の患者さんへの開放は、上司や周辺の理解を得ることはできなかった。

これは1980年頃の話である。このことがあって、図書館界の動きを調査してみた。その結果、日本図書館協会から出版されている雑誌に掲載されていた菊池祐氏の海外の視察レポートを読み、まさに「目から鱗」の感がした。

米国におけるCHI（Consumer Health Information＝消費者健康情報）の動きは、1960年代の消費者運動が起源とされ、1970年代に医学情報サービスの黎明期を迎えたとされている。

私が米国の現状を知ったのはこのような時期であった。

山室真知子氏（後に当連絡会設立の同志）の京都南病院を知ったのもこの頃である。京都南病院は1966年（昭和41年）に医療スタッフのための図書室を設置し、1970年（昭和45年）からは入院患者と地域住民にも医学図書室とは別に健康図書を備えて開放し、1997年（平成9年）に我が国で初の患者さんに医学書を本格的に開放した。

私の方は、紆余曲折があったが自治医大病院でボランティアによる患者図書サービス（一般書）を開始出来たのは1985年（昭和60年）であった。

### 3. 本会の設立当初

全国患者図書サービス連絡会が創設された1994年（平成6年）1月30日から25年が経過

した。創設時には、この種の団体がなかった為に活動の対象を“総花的”に広げる必要があった。患者図書サービス（当時は一般書籍サービスがほぼ全て）を行っている病院は全国に「点」として存在していた。この「点」を「線」で結び「面」として活動を支援していくことが目的の一つであった。我々設立メンバーの内、四半世紀後の現在も役員として運営に関わっているのは3名である。

この25年間に患者図書サービスを取り巻く環境は大きく変化した。闘病記の著者は作家から一般市民（患者や家族）に移行したが、価値が見直されて患者図書サービスの提供資料として一部の方々から評価された。この他にも、医療を提供する病院には「患者さんへの説明義務」（インフォーム・ドコンセント）と「患者さんの知る権利」（病名告知・カルテ開示・セカンド・オピニオン）が叫ばれ、同時に医学情報を得るための機能を整備することが病院評価項目に盛り込まれた。

#### 4. 設立当初の機能と対象

本会の設立総会時に承認された「設立趣旨」では、持つべき機能として

- ① ネットワーク機能（サービス主体団体＝個人は、横の連携が取られていないため、会員を募集して相互に補完する）
- ② 情報の共有機能（具体的には「会報」を発行して、各々の活動に関する内容を共有する）
- ③ 研修機能（当時、MRSAの感染は図書が媒体ではないかと言われて、サービスの継続を危ぶむ団体もあり、この問題について科学的な検証を行う必要があった。このようなサービスの継続に関わるような問題についての研修会を開催することも求められていた）
- ④ コンサルテーション機能（サービス開始のノウハウ、問題に遭遇した時のアドバイス等を行う）

以上が求められていた。

設立当時は個々のボランティアグループなどが、横のつながりを持たずに活動しており、当連絡会のような連合体としての役割を目指したものは、わが国には存在しなかった。従って、概ね患者さんを対象とした以下のサービス全体を守備範囲と考えていた。

- ① 成人入院患者さんへの“一般書”のサービス（当時はボランティアが主体であった）
- ② 小児病棟の患児を対象とした「読み聞かせ」や「パネルシアター」等（これもボランティアが主体であった）
- ③ 公共図書館（外部サービスとして病院にもサービスを提供）
- ④ 医学・健康情報の提供サービス（当時、実施しているのは京都南病院など数病院であった）

## 5. 患者図書サービスをめぐるその後の動き

ここでは、当連絡会の創設年である1994年（平成6年）と、その4年後の1998年（平成10年）に発行された医学図書館協会の機関誌『医学図書館』誌の2度の特集からみた環境の変化を紹介したい。一度目の特集が組まれた1994年には、「患者には医学資料を充分には理解できないのではないか」と懸念される記事が多くみられた。しかし、2度目の1998年には、スナイダー足立純子氏（元聖路加国際病院図書室司書）のアメリカでの実践とその背景が述べられ、山室真知子氏の京都南病院（1997年1月）での実践例、スナイダー氏の実践を視察してきた有田由美子氏がアメリカでのサービスの方式を日本に展開した新潟県立がんセンター新潟病院（1997年5月）でのサービスと、北海道の地原かおり氏がスナイダー氏と有田氏を念頭に置いた日鋼記念病院（1997年7月）での実践例が紹介されている。その後続々と医学情報を視野に入れた病院患者図書サービスが開始された。

大学附属病院では東京女子医科大学（2003年6月）や東邦大学などで一般市民をも対象とした病気に関する医学情報のみならず健康関連情報をも提供している。公共図書館では、当時は医学分野では必須の“最新情報を維持すること”の財政的な負担もあり、49部門（日本十進分類法の医学部門）は資料収集の対象外としていた。都立中央図書館などに「医学情報コーナー」の設置が始まった。これは、それまで評価が分かっていた「闘病記」の有効性を認める方々（任意団体も出現）が“目玉”として「闘病記」を設置し始めたことも、大きく影響を与えた。

## 6. 連絡会の在り方

設立当時は当連絡会と類似の団体が皆無であったために、必然的に連絡会の守備範囲として「患者さんを対象とした図書サービス」を行っている団体（ボランティア・病院図書室・公共図書館のアウトリーチ活動等）の全体を網羅したために、会員は多岐に及んだ。

現在では、分野ごとの委員会が誕生した。以下に現在も活動を継続していると思われる団体を列挙する。

- ① 日本図書館協会健康情報委員会
- ② 日本医学図書館協会医療健康情報委員会
- ③ 日本病院ライブラリー協会
- ④ 医療の質に関する研究会
- ⑤ 健康情報棚プロジェクト

この他にも関連する団体が機能しているかもしれないが、いずれにしても設立当初とは異なり、当会の守備範囲の内にあると考えてきたものが、それぞれの設置母体ごとに委員会が設置され、目的ごとに活動を推進する委員会などが設置されている。更に、当会よりも団体としての設立基盤が盤石な組織もあることから、我々の現在と将来における果たすべき役割はあるのか、他と競合してまで存在する意義はあるのかを真剣に考えて決断する

時期に来ていると思われる。もちろん、他の団体の守備範囲から“こぼれた”役割があれば、それが“アイデンティティー”と考える必要があるかもしれない。

## 7. 終わりに

従来の患者図書サービス（医学情報提供以前）は、病院の理解、ボランティアの熱意（或いは、公共図書館の協力）が必要要素としてあり、基本的には現在にも通じるものがあるように思う。京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」（1995年）は間もなく4半世紀の長きにわたり地道な活動を行っている。また、岩手県立中央病院では「ボランティアひまわり」（2000年）の堅実なしかも確実な進歩を感じさせる活動は、私の理念の根幹を支える大切な存在である。

一方、「医学情報の提供」については、米国における先進的な構想と実践による「MEDLINE」の公開は、公共図書館のリテラシー教育のあり方を大きく前進させた。我が国にあっては、公共図書館のサービスの限界を地域の病院図書室や大学医学図書館との相互補完でのサービス形態を採用する地域も現れた。また、医学情報サービスに特化したメーリングリストも誕生し、ともに情報を共有して研鑽する場もできた。

このような環境の変化の中で、当連絡会はどのような独自性のあるアイデンティティーを掲げることができるのであろうか。

## <患者図書室訪問>

# 青梅市立総合病院訪問記

山口 文子

2月12日、青梅市立総合病院を見学しました。初めての町です。JR青梅線河辺駅南口に立つと、空気が凛として澄んでいる感じ。山も見えて空が広々としていました。病院は徒歩5分で着きます。正面玄関で司書の家田史子さんが待っていてくださいました。以前から一度お伺いしたいという念願がかないました。正面入ったすぐ左に「がん相談支援センター」があります。平成20年にがん診療連携拠点病院の指定を受けています。以前は患者図書室がここにあったそうです。

さっそく現在の患者図書室を案内してもらいました。聞いていた通り、そこは「図書室」ではなく「図書コーナー」という形態でした。壁がなく家具で仕切られた居心地のよい空間になっています。この日は天気が良かったので、吹き抜け窓から光が溢れていました。

### 患者図書コーナー

小児科外来の待合の隣が患者図書コーナーになっています。総合病院なので全科の患者さんを対象としているため、患者さん向けの本も様々な分野をカバーしています。家田さんが書いたメッセージシールとラベルが貼られていて、きれいに並んでいるのが気持ちいいです。あえてきっちり分類別にしていないというのも、圧迫感がなくていいと思いました。

本は入院患者さんには貸出し可で、貸出し用紙を入れる手作りの箱が置かれていました。プライバシー保護のため鍵も付けてあります。オープンスペースにしたことでバリアがなくなり、誰もが利用出来る患者図書コーナーになっています。

小児科外来の待合には大きな木のモニュメントがあり、木のお腹にあたる場所に絵本が置けるようになってます。もともとテレビを置くように設計されていたそうですが、子ども達のために本棚にしたところに関係者の良心を感じました。

### 癒しと安らぎの環境賞

後日調べたら、「全国自治体病院協議会雑誌」に青梅市立総合病院が紹介されていました。昔自分が勤務していた病院図書室にも置いてあったのに、実は注意していなかったことは迂闊でした。要約すると、2002年の癒しと安らぎの環境フォーラムの主催する第1回「癒しと安らぎの環境」賞の病院部門の最優秀賞を受賞したそうです。これは、絵画や写真、オブジェ、生け花などのアートをいかに医療施設に取り入れられているか、そしてその活動が継続性を持って行われており、それにより施設全体の環境改善、癒しと安らぎの場になっているかが評価されたということでした。

### 屋上庭園で考えたこと

最後に、奥多摩の山々が一望できる患者さんに人気の癒しの庭園を見せてもらったとき、病院に在ることを忘れてしまいそうでした。私が今まで行ったことがあるのは限られた施設ではありますが、どこにもこんなに居心地のいい病院はなかったのです。そして家田さんのように職員の方への情報提供と、患者さんへの気配りとを、生き生きと見事に両立されている司書さんも他にいないと思います。青梅から都内の大学病院に紹介された患者さんが、それぞれの患者図書室をしっかりと活用して、自分の病気に前向きに取り組むことが出来た、という事例も伺いました。患者図書サービスに関わる者として嬉しいお話でした。

### 青梅市立総合病院患者図書室利用案内

- 名 称 : 病気がわかる図書コーナー
- 住 所 : 〒198-0042 青梅市東青梅 4-16-5
- 電 話 : 0428-22-3191
- アクセス : JR青梅線河辺駅南口徒歩 5 分
- 開館時間 : 病院診療時間に同じ
- サービス : 閲覧, 貸し出し



お知らせ

## 2018年度決算報告

収入の部			
費目	収入	内訳	備考
前年度繰越金	54,103		
2018年度会費	236,000		59人分
2017年度会費	64,000		16人分
賛助会員費	60,000		サンメディア、医学中央雑誌
広告料	15,000		
雑収入	3,000		会誌販売
講演会参加費	30,500		
合計	462,603		

支出の部			
費目	支出	内訳	備考
会報発行費	102,114		
会報印刷		42,120	24巻1号
		34,452	24巻2号
会報発送費		14,440	24巻1号
		11,102	24巻2号
講演会費	49,250		
講師謝礼		40,000	2018年7月14日(20,000円×2名)
講師懇親会		9,000	2018年7月14日分
諸費		250	お茶等
役員会費	1,800		
会場費		1,800	上大岡ウイリング横浜
事務局費(消耗品)	15,720		封筒印刷(角2)、ラベル、コピー、郵送費
借入金返済	50,000		
次年度繰越	243,719		
合計	462,603		

2019年4月6日

上記の通り、予算執行があったことを確認いたしました。

会計監事

磯野威

## 2019年度予算計画

### 収入の部

費目	収入	内訳	備考
前年度繰越金	243,719		
2019年度会費	240,000		60人分
賛助会員費	60,000		(株)サンメディア、医学中央雑誌刊行会
広告料	10,000		読書工房(2号分)
雑収入	0		
講演会参加費	30,000		
合計	583,719		

### 支出の部

費目	支出	内訳	備考
会報発行費	110,000		
会報印刷		40,000	24巻1号
		40,000	24巻2号
会報発送費		15,000	24巻1号
		15,000	24巻2号
講演会費	225,000		
講師謝礼		160,000	10月パネル講演会(20,000円×8名)*司会を含
交通費		30,000	
講師懇親会		30,000	
諸費		5,000	コピー、お茶代など
役員会費	16,000		
会場費		16,000	八重洲倶楽部、上大岡ウイング横浜など
事務局費(消耗品)	16,000		封筒印刷(角2)、ラベル、コピー、郵送費
旅費	50,000		役員会、打ち合わせ会
次年度繰越	166,719		
合計	583,719		



## 全国患者図書サービス連絡会会報投稿規定

1. 本会会員（購読会員を含む）は誰でも投稿できます。
2. 本会報は、患者図書サービスをめぐるいろいろな話題や問題、そしてこれらと関係する論文、報告、資料などを掲載します。
3. 投稿原稿の採否は、役員会で決定します。
4. 投稿原稿の長さは問いません。
5. 投稿原稿の執筆・提出要領は次の通りです。
  - ① 原則としてWord形式で作成してください。
  - ② 表紙頁には標題、著者名、所属を明記し、更に、主執筆者の所属、郵便番号と住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス等を明記してください。
  - ③ 外国人名は原語表記または、適当な日本語表現で表記してください。
  - ④ 原稿に付随する図や、表、写真は図1、表1、写真1などの番号を付け、本文とは別に添付し、本文原稿の欄外にそれぞれの挿入希望位置を指定してください。またそれらは、スキャナを使ってパソコンに取り込んで印刷しますので、なるべく鮮明なものをつけて下さい。原稿も含め、投稿されたものは原則的にお返ししませんので、貴重な写真などはなるべくコピーをとって下さい。どうしても返却を希望されるときは、その旨お伝えください。
  - ⑤ 参考文献の記載様式：
    - i) 記載順序は出処順として下さい。
    - ii) 逐次刊行物：著者、論文名、誌名、出版年；巻数（号数）：開始頁—最終頁。
    - iii) 単行本：著者、章の見出し、編者名、書名、版表示、（シリーズ名；シリーズ番号）、出版地；出版者；出版年、開始頁—最終頁。
6. 著作権は、全国患者図書サービス連絡会に帰属します。転載などを希望する場合は本会事務局に問い合わせして下さい。
7. 原稿送付先：info@kanjatosh.jp

(2017.11.18 改訂)

### [編集後記]

25巻1号（通巻83号）をお届けします。

静岡県にお住いの会員から投稿を頂きました。また、連載記事「患者図書室訪問」2回目を掲載しました。患者図書サービスのさまざまな活動事例を誌上で共有できることを嬉しく思います。

また、特別企画として「患者図書サービスの振り返り」というテーマで、5人の方から原稿を頂きました。秋に予定しているパネル講演会との連動企画です。

(編集子)



電子ジャーナルホスティングサイト

# PierOnline ピアオンライン

PierOnlineは国内の学術出版社が発行する医学・薬学・看護系の学術誌を電子ジャーナルとして提供するホスティングサイトです。ご利用は1論文からPayPerView購入が可能です。

## メディカ出版 25タイトルを1論文単位でPayPerView購入できます！



- ・インфекションコントロール
- ・Emer-Log
- ・オペナーシング
- ・眼科グラフィック
- ・眼科ケア
- ・サーキュレーション・アップ・トゥ・デート
- ・みんなの呼吸器Respica
- ・スマートナース
- ・整形外科サージカルテクニック
- ・産業保健と看護
- ・消化器外科ナーシング
- ・ナーシングビジネス
- ・整形外科看護
- ・ニュートリションケア
- ・赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO
- ・透析ケア
- ・ハートナーシング
- ・糖尿病ケア
- ・バスキュラー・ラボ
- ・ブレインナーシング
- ・YORI-SOUがんナーシング
- ・脳神経外科速報
- ・ペリネイタルケア
- ・リハビリナース
- ・泌尿器Care&Cure Uro-Lo

### その他、PierOnlineには価値ある雑誌を多数収録！

- ▶ 癌と化学療法社「癌と化学療法」 ▶ 最新医学社「最新医学」
- ▶ 南江堂（南江堂オンラインJournal）「外科」「内科」「胸部外科」「整形外科」「別冊整形外科」
- ▶ 「がん看護」 ▶ メディカルレビュー社「PharmaMedica」 ▶ 医歯薬出版「医学のあゆみ」
- ▶ ライフサイエンス出版「薬理と治療」「TherapeuticResearch」…等

\*ご利用の多い雑誌を1誌単位で年間購読も可能です。  
 \*メディカ出版全誌パッケージのお得な価格もご用意しております。  
 \*本文を対象とした全文検索が可能です。

**SUNMEDIA 株式会社サンメディア e-Port**

e-mail : e-port@sunmedia.co.jp

本社 〒164-0012東京都中野区本町 3-10-3 PORTビル  
Tel : 03-3299-1575 Fax : 03-3374-1410

大阪オフィス 〒550-0003大阪市西区京町堀 1-3-3 肥後橋パークビル 4F  
Tel : 06-6444-7720 Fax : 06-6444-7730



### 国内最大級の医学文献情報データベース

# 医中誌 Web Ver.5

デモ版 <https://demo.jamas.or.jp/>

**Database Interface Link Customize**

国内発行の医学・薬学・看護学等の定期刊行物のべ約7,000誌から収集された膨大な医学文献情報をインターネットで検索できます。検索対象は1959年から最新データまで約1,300万件。

直感的に検索できる検索インターフェース（PCおよびモバイル）をご用意しています。また、医学用語シソーラスや検索履歴を使い、より適合性の高い検索結果を得ることができます。

医中誌Webから電子ジャーナルや全文PDF等のフルテキストサービスにリンクしている件数は370万件、うち130万件は無料で公開されています(2019年7月現在)。また、図書館システムとのリンクも行えます。

大学・病院・企業・公共図書館などそれぞれの環境に応じたご利用機関ごとのカスタマイズ、「My 医中誌」による個人ごとのカスタマイズが行えます。

#### 法人向け「医中誌 Web」

1年間の固定料金制。同時アクセス数2で250,000円(税抜)～  
同時アクセス数上限の無いプランもございます。

#### 個人向け「医中誌パーソナルWeb」

1ヶ月8時間利用で2,000円(税抜)～

特定非営利活動法人 **医学中央雑誌刊行会** <https://www.jamas.or.jp/>



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東2-5-18  
TEL: 03-3334-7625 FAX: 03-3335-3327 E-MAIL: info@jamas.or.jp



# UNIVERSAL THEATER

## 夢の ユニバーサル シアター

平塚千穂子



映画の世界に新たな光をくれた  
この“光”がたくさんの人々の  
元にとどきますように

映画監督 河瀬直美

A 5判・248ページ 定価：本体 2,000円+税  
ISBN：978-4-902666-37-3

## 夢のユニバーサルシアター

平塚千穂子 著

目が見えなくても映画を楽しめるツール「音声ガイド」。

音声ガイドの制作者であり、日本初のユニバーサルシアター「シネマ・チュブキ・タバタ」の創設者でもある著者・平塚千穂子が、さまざまな壁を乗り越えてたどり着いた、誰もが楽しめる新しい映画鑑賞の形、映画館のあり方について提案します。

もくじ

CHAPTER 1

シネマ・チュブキ・タバタができるまで

CHAPTER 2

制作者とモニターが語る音声ガイド

CHAPTER 3

音声ガイドで読む映画『ローマの休日』とガイドづくりのポイント

有限会社 読書工房

〒171-0031 東京都豊島区目白3-13-18 ウイング目白102

電話：03-5988-9160 ファックス：03-5988-9161

Eメール：info@d-kobo.jp <https://www.d-kobo.jp/>

全国患者図書サービス連絡会会報 ISSN 1344-2937

第25巻 第1号（通巻83号）2019年6月30日発行

発行所：全国患者図書サービス連絡会 (<http://kanjatosho.jp/>)

〒232-8555 横浜市南区六ツ川2-138-4

神奈川県立こども医療センター アレルギー科

高増哲也 気付

印刷所：株式会社 中島印刷所

〒232-0026 横浜市南区二葉町4-39